



2013 年 5 月 31 日
株式会社 みずほ銀行

「共働き夫婦」男女 500 名に聞いた みずほ銀行「うちの おかね」家計意識調査

今夏ボーナスへの期待感、4 割弱が「上がる」 アベノミクス効果への期待を反映

株式会社みずほ銀行(頭取:塚本 隆史)では、女性の社会進出や経済情勢の変化などから、1997 年以降、共働き世帯数が専業主婦世帯を上回っている(男女共同参画白書)等の状況を踏まえ、情報サイト「うちの おかね」の運営などを通して、主に共働き世帯の家計管理や資産形成を応援するサービスを展開しています。

このたび、みずほ銀行「うちの おかね」では、夏のボーナス支給を前に、昨今のアベノミクス効果による株高、円安などで社会全体が景気回復への期待感で盛り上がるなか共働き世帯の家計意識を調査すべく、全国の共働きの既婚男女約 500 名(20 代後半～40 代男女)を対象にインターネット調査を実施しました。

今回の調査では、次のような興味深い結果が得られました。

【調査結果の概要】

- 今夏のボーナスの予想は、「上がる」が約 4 割。市場のアベノミクス効果の高揚感が、ボーナス増への期待感に反映。
- 予想するボーナスのアップ額は、3 万円未満との回答が全体の約 4 割に。
- 共働き世帯の 1 ヶ月の平均小遣い額は男性 4.9 万円、女性 4.6 万円。理想の小遣い額は 7.5 万円。世帯年収に関わらず、全体的に現在の小遣いプラス 3 万円程度となる。
- 家計管理について、共働き世帯は夫婦間での話し合いを重視。貯蓄額が多い世帯ほど情報収集意欲が高い。
- 貯蓄の方法は「銀行口座を使い分ける」が、「定期預金を利用する」に次いで多い。

*本リリースは下記の URL からご覧いただけます。

<http://www.mizuhobank.co.jp/ouchi/>

【調査対象】

- 調 査 名: みずほ銀行「うちの おかね 共働き世帯の家計意識調査」
- 調 査 方 法: インターネットによるアンケート調査
- 調 査 地 域: 1 都 3 県(東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県)、札幌市、仙台市、名古屋市、大阪市、福岡市
- 調 査 対 象: 25 歳～49 歳既婚男女・有職者(公務員、経営者・役員、会社員)
- 有効回答数: 516 名(25-29 歳男女各 52 名、30 代男女各 103 名、40 代男女各 103 名)
※自営業、自由業、パートアルバイトは除く
- 調 査 日 時: 2013 年 5 月 8 日(水)～9 日(木)
- 図中の表記: SA＝単一回答、MA＝複数回答 ※数値は小数第二位で四捨五入



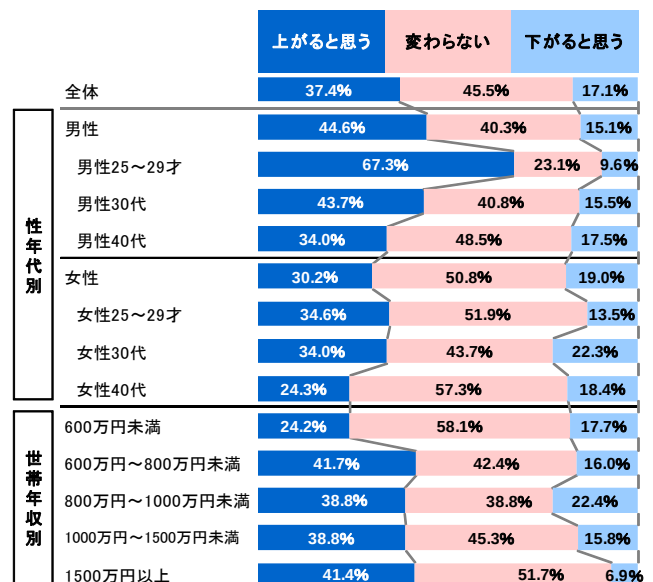
【調査結果】

- 今夏のボーナスは1年前に比べて、「上がると思う」が4割弱、20代男性では7割近くに景気回復の高揚感がボーナスアップへの期待感に反映。予想アップ額は「3万円未満」

今夏のボーナスが1年前と比べていくらアップするかを聞いたところ、ボーナスが「上がると思う」という回答が37.4%、「下がると思う」が17.1%となり、ボーナスアップの期待感が見られました。男性は年代別に差が見られ、特に20代後半男性では67.3%と約7割にのぼるなど、景気回復への高揚感が強く表れています。一方、30代男性は43.7%、40代男性は34.0%と20代後半男性よりも低い傾向でした。

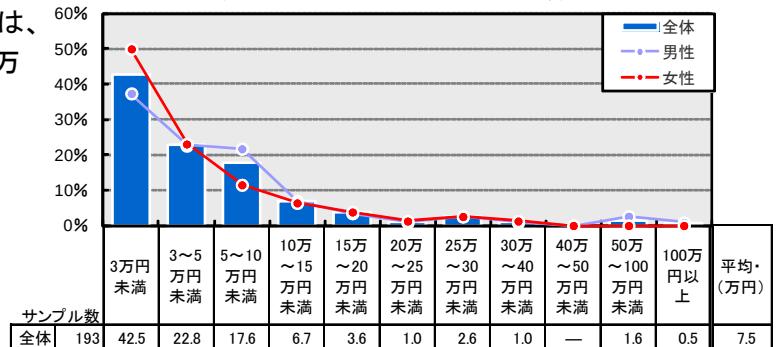
一方、「変わらない」という回答は約半数の45.5%で、「上がると思う」という回答とあわせると、8割以上の方が、ボーナスは同程度または増加を期待しているという結果になりました。

＜今夏のボーナス予想(SA)＞



また、ボーナスが「上がると思う」と答えた人の中で、「いくらアップすると思うか」という質問には、約4割の人が「3万円未満」と答えており、「5万円未満」を含めると約6割にのぼりました。

＜今夏のボーナスの予想アップ額(SA)＞

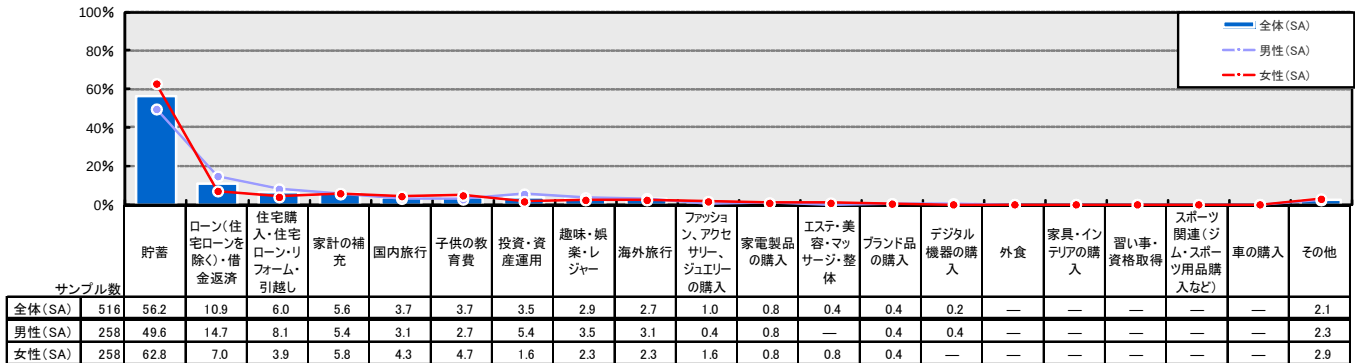


- 今夏のボーナスの使い道のトップは「貯蓄」、次いでキャッシュフローを補填する「ローン(住宅ローン除く)・借金返済」「家計の補充」が16.5%

今夏のボーナスの使い道について聞いたところ、「貯蓄」を1位に選んだ人が56.2%となりました。「貯蓄」を1位と回答した人は、男女別で見ると男性(49.6%)よりも女性(62.8%)が多くなりました。女性は男性よりも将来に備えて貯金する堅実志向が顕著に見られます。



<今夏のボーナスの使い道(MA、1位)>



- 1カ月の小遣い額は約4.8万円、理想の小遣い額は約7.5万円
世帯年収に関わらず、全体的に理想の小遣い額は現状プラス3万円程度の現実的な金額を望む傾向

1カ月間に自由に使える小遣い額について聞いたところ、平均で約4.8万円(男性4.9万円、女性4.6万円)でした。年代別では30代が少ない傾向にあり、住宅ローンや子供の教育費などで支出が増える時期であることが背景にあると思われます。

また、1カ月に自由に使える「理想」の金額を聞いたところ平均で約7.5万円(男性8.6万円、女性6.3万円)となりました。理想の金額は、男女間で1.3万円の差があり、女性の方がより現実的な金額をあげる傾向が見られました。

<1カ月間に自由に使える金額(SA)>

	現状	理想
全体	4.8	7.5
男性	4.9	8.6
男性25～29才	3.8	7.7
男性30代	3.8	8.8
男性40代	6.7	8.8
女性	4.6	6.3
女性25～29才	6.0	5.4
女性30代	3.7	6.0
女性40代	4.8	7.1

(万円)

- 共働き世帯は夫婦間での話し合いを重視。貯蓄額が多い世帯ほど情報収集意欲が高い傾向
家計管理について実践していることの上位は、「夫婦でルールを決める」が49.8%、「夫婦で定期的に話し合いをする」が39.1%、「インターネットを通じて情報収集をする」が26.0%

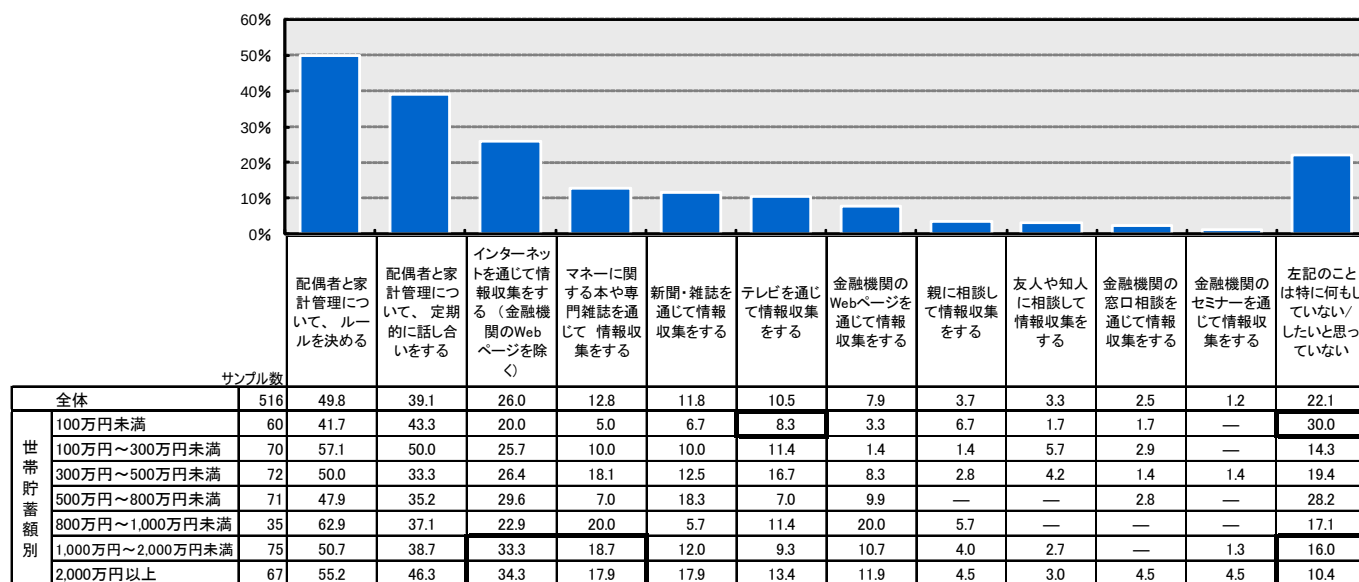
家計管理について実践していることについては、約半数が「夫婦でルールを決める」と答えたほか、「夫婦で定期的に話し合いをする」が約4割、「インターネットを通じて情報収集をする」が約3割弱と続きました。

また、世帯貯蓄額別では、貯蓄額が多い人ほど、「インターネットを通じて情報収集をする」割合や、「マネーに関する本や専門雑誌を通じて情報収集をする」、「新聞・雑誌を通じて情報収集をする」の割合が大きく、「何もしていない」割合が小さい傾向が分かりました。逆に、貯蓄額が少ない人ほど、「夫婦でルールを決める」割合が少なく、情報収集源として「専門雑誌」や「新聞」よりも「テレビ」をあげている割合が比較的大きく、「何もしていない」割合も大きいことが分かりました。



このことから、共働き世帯は全般的に夫婦間の話し合いを行うなど、家計管理に対する意識が高いと言えます。とりわけ、貯蓄額が高い世帯ほど、夫婦間の話し合いに意欲的で、主体的に情報収集を行う傾向がありました。

<家計管理について実践していること(MA)>



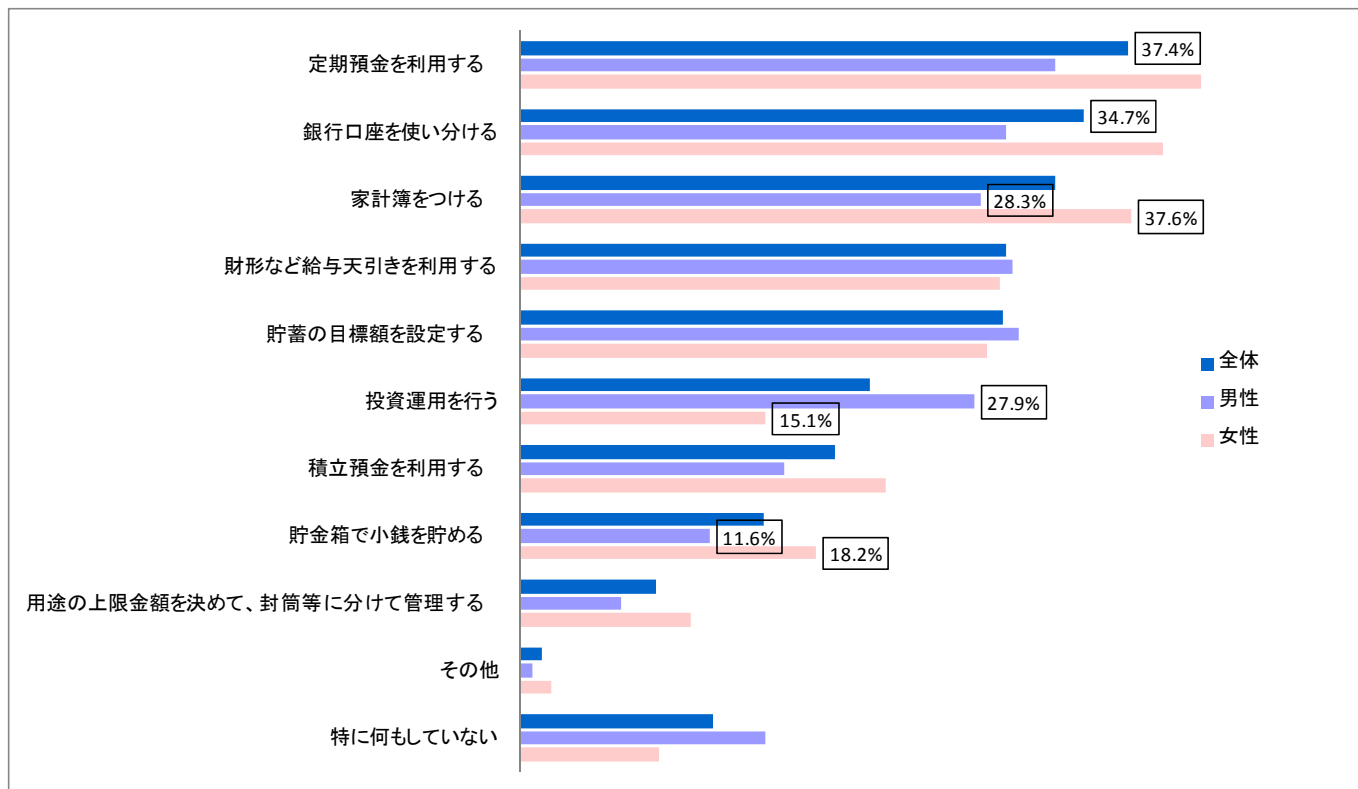
■ 貯蓄の方法のトップは「定期預金を利用する」が 37.4%、次いで「銀行口座を使い分ける」が 34.7%
共働き世帯は、複数口座での管理を活用。女性は堅実な方法を好む傾向

貯蓄のために実践している方法を聞いたところ、男女ともに「定期預金を利用する」が1位、次いで「銀行口座を使い分ける」が2位となりました。男女別の特徴では、男性は「投資運用を行う」(27.9%)が女性(15.1%)に比べて多く、女性は「家計簿をつける」(37.6%)、「貯金箱で小銭をためる」(18.2%)が男性(それぞれ 28.3%、11.6%)と比べて多い傾向が分かりました。年代別では、20代男女で「貯蓄の目標額を設定する」が1位でした。また、世帯貯蓄額別では、800万円以上で、「財形など給与天引きを利用する」や「定期預金を利用する」、「投資運用を行う」が多く、300万円未満ではこれらが少ない傾向が読み取れました。

共働き世帯は、銀行口座を使い分ける貯蓄方法を実践している傾向があり、世帯貯蓄額が多いほど口座の活用率が高く、世帯貯蓄額が少ないほど低いと言えます。また、男性は投資を行う傾向が強い一方、女性は堅実な方法を好む傾向にあるようです。



<貯蓄のために実践している方法(MA)>



おわりに

ボーナス支給を前に、共働きの20代後半～40代男女約500名に聞いた今回の家計意識調査からは、やはり円安株高進行による景気回復への高揚感の中、ボーナス増加への期待が高まっていることが分かりました。また、今回の調査結果では、共働き世帯が全般的に夫婦間の話し合いや情報収集などを重視しており、貯蓄方法として、銀行口座を使い分ける管理方法が支持されているなど、家計管理に対する意識の高さも伺えました。「うちのおかね」では、今後もウェブサイトの情報提供を通じて、お金に関する悩みやニーズに応えるとともに、共働き世帯の家計管理や資産形成をサポートしてまいります。

◆うちのおかね(<http://www.mizuhobank.co.jp/ouchi/>)とは

みずほ銀行は、家計管理に対するニーズの多様化に応え、親世代とは異なる価値観をもつ20代・30代のご夫婦・カップル向けにウェブサイト「うちのおかね」を開設し、ファイナンシャルプランナー中村芳子氏の監修のもと、将来設計をふまえた家計管理・貯蓄方法等、お金に関する基本的な情報を提供しています。詳細はウェブサイトをご覧ください。

【本件に関する照会先】

みずほ銀行「うちのおかね」PR 代行

(株)プラップジャパン担当: 深山・蔵持

TEL: 03-4580-9105

FAX: 03-4580-9131

※本情報は、みずほ銀行「うちのおかね」が実施したインターネット調査に基づいて作成したものです。調査結果の分析は、その正確性や完全性について保証するものではなく、また会社を代表しての公式見解ではありません。